

欧洲馬術レポート

週刊 Gallop 2019年 11月号掲載（最終）



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

席が設けられていることが多いです。

その他の場所では椅子がないので立ち見になりますが、前回ご紹介したオランダの試合では、写真のご夫婦のように携帯用の椅子を持ち歩き、歩くときはつえに、疲れたら椅子にして観戦する人も多く見られました。これはかなりの観戦上級者とお見受けします。

ただ、レジャーシートなどの軽いものは、風に飛ばされて馬を驚かせてしまうこともあるので要注意。雨天の場合も、傘ではなくレインコートをお勧めします。オランダの会場では「ハンティングホース」という馬に乗って狩猟をするための人馬が、伝統の真っ赤なジャケットを身にまとい観客の間を悠々と練り歩き、観客を楽しませてくれます。大会を一つのエンターテインメントとして楽しむ人々の様子は、馬との距離が近い海外ならではのこと。羨ましい限りです。



④観戦上級者のご夫婦⑤ハンティングホースも出店でひと休み（本人提供）



馬耳蘭風

—オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



総合馬術の中でも観客が一番盛り上がるのが、各試合の2目に行われるクロスカントリー（以下クロカン）です。クロカンは、一定の間隔をおいてスタートする選手を自分の選んだ場所で待ち受けする形の観戦で、基本的に観客は自由に移動することができます。中でも1番人気のスポットが、大きな池の中にフェンスがある水濠障害周辺。馬と選手が勢いよく水しぶきをあげて池に飛び込む姿が見られるこの付近だけは、観客

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亞

Maria Takada



ドイツの大会でよく見かけるこのバッジ（写真）。選手のえんび服の上で輝いています。その名も『Goldenes Reitabzeichen』（ゴールデネス ライトアップツァイヘン）。直訳すると「金の騎乗バッジ」といったところでしょうか。

ジトツブライダーは必ずこのバッジをえんび服につけています



実はこのバッジ、誰でも簡単に手に入るものではありません。ある一定のクラス（日本のS課目）以上のドイツ国内大会で10勝した選手にのみ、ドイツ馬術連盟から授与される名誉あるものなんです。競技人口が多いドイツで勝つことは非常に難しく、ましてや10回となると難易度はさらに上がります。たくさん試合に出て数年で手に入れる人もいれば、何十年もかかってようやく手に入る人、また手に入れることができない人も多くいます。バッジの授与が決まるとき、地元の新聞に掲載されたり、ちょっとしたセレモニーが行われたりするほどです。

採点競技である馬場馬術では、このバッジを胸元につけすることで審判員へのイメージをグッと上げる（？）なんてもできるのかもしれません。国籍は問わないので、私を含めドイツで活動している各国の選手が、「いつかは手に入れたい！」と思っているバッジなのです。



バッジの直径は5cmほどあり、遠くからでもよく見えます（写真是全て本人提供）



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亞

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。